

☆今どきの家事・育児事情☆

日本の男性の家事・育児時間は少ない

日本の男性の家事・育児への参加は少しずつ進んでいるように見えますが、実際はどうでしょうか。

統計によると、6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連に費やす時間は、1日あたり1時間7分となっていて、他の先進国と比較してきわめて低水準です。(左頁図1参照)

一方で、子育て期にある30歳代および40歳代の男性は、週6時間以上の就業がそれぞれ14.7%、15.2%となっており、他の年代の男性と比べて高くなっています。(左頁図2参照)

パパとママの理想と現実

男女平等推進プラザでは、松が谷児童館と玉姫児童館の協力を得て、男性保護者対象の講座「パパと遊ぼう！0歳児とのふれあいあそび」を



実施しています。パパが手遊びや歌遊びの指導を受けている間、ママは別室でママ同士のおしゃべりと情報交換の場です。

この講座の参加者に、家事・育児の分担の理想と現実、そのギャップを埋めるために必要なことについて聞きま

した。結果、理想の分担割合が夫4・妻6に対して、現実には夫2・妻8となかなか厳しい現実がうかがえました。

「パパと遊ぼう！」実施日：平成29年6月10日
回答者：夫6名・妻6名(割合は夫と妻の回答の平均値)

Q1. 家事・育児の分担割合の理想と現実とは？

	夫	妻
理想	4	6
現実	2	8



Q2. 理想と現実のギャップを埋めるために何が必要？

社会の男性育児に対する考えの変化

育児休業を取得する

夫は外で働き、妻は家庭を守るという性別役割の固定観念を持たない

平日の仕事を少なくする(夫は休日はよくやってくれる)

言われなくてもできるようにしてほしい

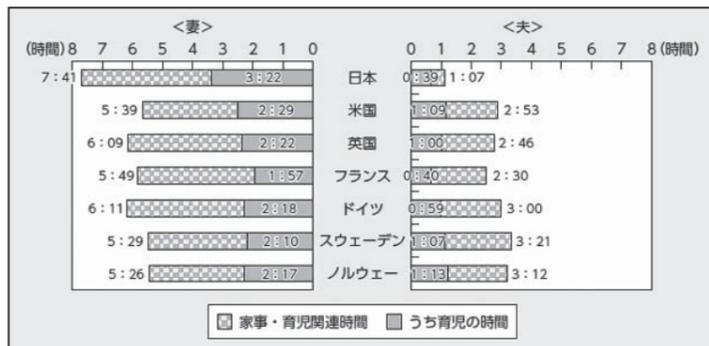
互いの感謝・コミュニケーション



ワーク・ライフ・バランスが大事

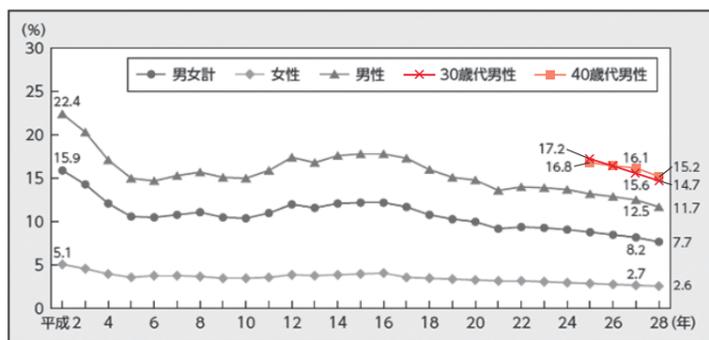
長時間労働を前提とした働き方では、男性も女性も仕事と家庭生活との両立は困難であることが、子育て中のパパ、ママの声からもうかがえます。長時間労働の改善は、地域活動、自己啓発の時間の確保などを含めたワーク・ライフ・バランスの観点から重要であり、男女が共に暮らしやすい社会に向け、今もなお大きな課題となっているようです。

図1:6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間(1日あたり、国際比較)



出典：内閣府 男女共同参画白書 平成29年度版

図2:週間就業時間60時間以上の雇用者の割合の推移(男女計、男女別)



出典：内閣府 男女共同参画白書 平成29年度版



台東区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度～平成28年度は5社を認定しました～

台東区では平成28年度から、仕事と生活を両立しながら、いきいきと働き続けられる職場の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスに取り組む中小企業等を「台東区ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認定し、その取組を応援しています。子育て支援・働きやすい職場づくり・介護支援の3つの分野で認定を行っています。

〈平成28年度認定企業紹介〉

企業名	認定分野
株式会社吉徳	子育て支援・働きやすい職場づくり
株式会社グローバルパワー	子育て支援・働きやすい職場づくり
特殊製版ザック株式会社	働きやすい職場づくり
株式会社平岡	子育て支援・働きやすい職場づくり・介護支援
株式会社ウィルド	子育て支援・働きやすい職場づくり

〈詳しくは区ホームページをご覧ください〉

台東区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業

検索

